

ウズベキスタン

2022年7月7日ドラフト作成

1. 一般情報.....	1
(1) 人口・地理.....	1
(2) 内政.....	2
2. 人権状況.....	3
3. 関連する政治組織等、政治活動／政府批判（労働運動含む）の取扱い.....	3
4. ジェンダー、DV および子ども.....	4
5. LGBT.....	4
6. 汚職、非国家主体による犯罪、国家による被害者の保護.....	4
(1) 犯罪発生状況.....	4
7. 兵役、強制徴集（非国家主体の）.....	4
8. 司法制度・刑事手続.....	4
9. 警察・治安部隊（刑務所等の状況含む）.....	5
10. 報道の自由.....	5
11. 宗教の自由.....	5
12. 国籍、民族および人種.....	5
(1) 国籍の喪失.....	5
13. 出入国および移動の自由.....	6
14. その他.....	6
略称.....	6

1. 一般情報

(1) 人口・地理

ア 外務省「[ウズベキスタン基礎データ](#)」（2022年5月24日）

4 民族

ウズベク系 (84.3%)、タジク系 (4.8%)、カザフ系 (2.4%)、カラカルパク系 (2.2%)、ロシア系 (2.1%)

(2020年：ウズベキスタン国家統計委員会)

5 言語

国家語はウズベク語（テュルク諸語に属する。但し、タシケント、サマルカンド、ブハラ等主として都市の諸方言はペルシア語の影響を強く受けている）。またロシ

ア語も広く使用されている。

6 宗教

主としてイスラム教スンニ派

イ ●USCIRF「[年次報告 2022年](#)」(2022年)

The government of Uzbekistan estimates the population of the country at around 34 million people. Between 88 and 96 percent of people identify as Sunni Muslim; one percent identify as Shi'a Muslim; 2.2 percent identify as Russian Orthodox Christian; and 1.8 percent identify as atheist, Baha'i, Buddhist, Catholic, Jehovah's Witness, Jewish, Protestant, or a member of the International Society of Krishna Consciousness.

(2) 内政

ア 外務省「[ウズベキスタン基礎データ](#)」(2022年5月24日)

(2) 独立以来、議会では「人民民主党」と改称した旧共産党が大勢を占め、初代大統領(当時)を支持していたが、2004年12月に実施された二院制に移行後の議会選挙で、同大統領を支持する新党「自由民主党」が第一党となった。2014年12月及び2019年12月に実施された下院選挙後も、政権支持派の諸政党が議席を分け合う状況に変化は見られない。

(3) 1989年のフェルガナ事件(ウズベク人とトルコ系メフス人との衝突)、1990年のオシュ事件(ウズベク人とキルギス人との衝突)等の民族間対立の他、1999年2月、2004年4月、7月にはタシケント市等で爆発事件が発生。2005年5月、フェルガナ盆地アンディジャン市にて武装勢力による刑務所等の襲撃や住民による反政府デモが起き、治安部隊が鎮圧の際に一般市民に発砲し、数百名の死者が生じたとされる(アンディジャン事件)。2009年にタシケント市内で武装グループと治安当局との間の銃撃戦等の事件が発生したが、2016年12月のミルジョエフ大統領就任以降、国内の治安は比較的安定している。

イ FIS「[クエリー回答 フィンランド：一般情勢 \(Uzbekistan / Yleinen tilanne\)](#)」 EUAA COI ポータル (2022年6月10日)

ウズベキスタンは長い間、世界で最も全体主義的な国のひとつだったが、2016年9月にソ連時代から唯一の支配者であった大統領が死去し、「タシケントの春」への期待が高まった。このような期待に沿って改革が行われたり、約束されたりしてきたが、この国は依然として非常に統治が厳しく、非民主的で不安定な国である。…

※ 原文フィンランド語。訳文は、DeepL.com(無料版)による翻訳に修正を加えたものです。

2. 人権状況

ア FIS「[クエリー回答 フィンランド：一般情勢 \(Uzbekistan / Yleinen tilanne\)](#)」 EUAA COI ポータル (2022年6月10日)

ウズベキスタンの人権状況は、あらゆる面で恒常的に非常に劣悪である。近年、表現の自由は拡大したが、後退もあり、依然として非常に限定的である。政治的な反対者は今でも精神病院で「治療」されている。反対運動のほか、違法な宗教団体も禁止されている。特にイスラム教の普及が抑制されているため、宗教団体の登録は困難である。拷問が横行し、被拘束者の殺害や行方不明も報告されている。

※ 原文フィンランド語。訳文は、DeepL.com（無料版）による翻訳に修正を加えたものです。

3. 関連する政治組織等、政治活動／政府批判（労働運動含む）の取扱い

ア ●HRW「[ワールドレポート 2022 - ウズベキスタン](#)」(2022年1月14日)

Freedom of speech and the media experienced clear setbacks, with authorities targeting outspoken and critical bloggers, including Otabek Sattoriy, who was sentenced to six-and-a-half years in prison in May. Authorities continued to deny registration to independent human rights groups and to criminalize consensual same-sex relations. Authorities used anal exams, a form of torture, in prosecutions of gay men. Impunity for ill-treatment and torture remained the norm.

...

Freedom of Speech

Although media activity in Uzbekistan has increased considerably since 2016, there was a notable decline in respect for speech and media freedoms in 2021. Journalists faced harassment, prosecution, and assault. Defamation and insult remain criminal offenses, despite President Mirziyoyev's decriminalization pledge in 2020. In March, Uzbekistan adopted legislative changes criminalizing online criticism of the president. Radio Ozodlik, the Uzbekistan branch of Radio Free Europe/Radio Liberty, remains blocked. In June the Foreign Affairs Ministry denied accreditation to Agnieszka Pikulicka, a Tashkent-based foreign correspondent, and in November blocked her entry to Uzbekistan.

Authorities have targeted multiple bloggers with criminal or administrative charges. In May, a Surkhandaryo court sentenced the outspoken blogger Otabek Sattoriy to six-and-a-half years in prison following a dubious conviction on slander and extortion charges. Despite significant public outcry, his sentence was upheld on appeal in July. A Tashkent-based blogger, Miraziz Bazarov, was attacked by unidentified assailants outside his home in late March and had to be hospitalized.

...

4. ジェンダー、DV および子ども

5. LGBT

ア ●HRW [「ワールドレポート 2022 - ウズベキスタン」](#) (2022年1月14日)

Sexual Orientation and Gender Identity

Men in Uzbekistan who engage in consensual same-sex sexual conduct face arbitrary detention, prosecution, and imprisonment under art. 120 of the criminal code, which carries a maximum sentence of three years in prison. Gay men also face threats and extortion by both police and non-state actors. Uzbekistan's draft criminal code, pending further review, retains the offense under article 154, with the wording unchanged.

Uzbek police and courts have relied on the conclusions of forced anal examinations conducted between 2017 and 2021 to prosecute men for consensual same-sex relations. Such exams are a form of violence and torture, according to the World Health Organization (WHO).

6. 汚職、非国家主体による犯罪、国家による被害者の保護

(1) 犯罪発生状況

ア FIS [「クエリー回答 フィンランド：一般情勢 \(Uzbekistan / Yleinen tilanne\)」](#)
EUAA COI ポータル (2022年6月10日)

…統計によると、ウズベキスタンは一人当たりの殺人件数は少ないが、交通事故による死亡者数はフィンランドの3倍である。しかし、交通安全はウズベキスタンの隣国のどの国よりも優れている。フィンランド外務省は、フェルガナ盆地やその他の国境地帯では、騒乱や地雷の可能性があるので、特に注意を呼びかけている。「ウズベキスタンの治安は比較的安定している。…警察を装った犯罪が発生している。…交通は自動車、歩行者ともに危険である。…国内航空輸送に使用されている機材は一部ソ連時代のものが残っており、必ずしも国際基準を満たしていない可能性がある。…ウズベキスタンでは小さな地震が頻繁に起きている。…ウズベキスタンの医療は欧米の水準に達していない・・・」

※ 原文フィンランド語。訳文は、DeepL.com (無料版) による翻訳に修正を加えたものです。

7. 兵役、強制徴集 (非国家主体の)

8. 司法制度・刑事手続

ア FIS [「クエリー回答 フィンランド：一般情勢 \(Uzbekistan / Yleinen tilanne\)」](#)
EUAA COI ポータル (2022年6月10日)

ウズベキスタンの裁判所は政治的に独立していない。ものごとは、お金と人間関係で決まる。ウズベキスタンは、ロシアよりも若干腐敗していると認識されているが、汚職指数の順位（180カ国中140位）は年々着実に上昇している。司法制度は極めて脆弱であり、容疑や証拠のねつ造が日常茶飯事に行われている。その一方で、近年では、有罪判決が覆るケースも増えている。

※ 原文フィンランド語。訳文は、DeepL.com（無料版）による翻訳に修正を加えたものです。

9. 警察・治安部隊（刑務所等の状況含む）

10. 報道の自由

11. 宗教の自由

ア ●USCIRF「[年次報告 2022年](#)」（2022年）

ウズベキスタン USCIRF 特別監視国への掲載を勧告される国

In 2021, religious freedom conditions in Uzbekistan began to trend negatively. The government of Uzbekistan in some ways departed from its forward-leaning religious freedom reform agenda and resumed the use of certain repressive policies against Muslims and those who advocate on their behalf. Research by USCIRF found that the government continued to imprison approximately 2,200 political prisoners in connection with their religious activities or real or alleged religious affiliations. Although many of these prisoners were sentenced under the previous regime, the current administration has done little to review their cases systematically or release those wrongfully imprisoned. Moreover, the government added to that figure through the detention, arrest, and imprisonment of unknown numbers of Muslim individuals for peaceful religious activities such as possessing religious literature or meeting to pray. Notably, and particularly following the Taliban's late summer takeover in Afghanistan, authorities in Uzbekistan detained hundreds of individuals with purported links to the Islamic group Hizbut-Tahrir, often based on allegations related to their peaceful religious activity, association, or expression without evidence of the use or advocacy of violence. Over the course of the year, prisoners were allegedly subjected to beatings and other forms of torture at the hands of prison authorities.

...

12. 国籍、民族および人種

(1) 国籍の喪失

ア FIS「[クエリー回答 ウズベキスタン：移住による国籍の喪失（Uzbekistan / Kansalaisuuden menettämisestä ulkomaille muuton vuoksi）](#)」EUAA COI ポータ

ル (2021年12月17日)

1992年7月2日のウズベキスタン市民権法の英訳には、矛盾するものもある。これらによると、21条2項では、正当な理由なく在外公館に3年または5年間登録しなかった場合、市民権を喪失することができる（出国日からカウントするか、2年間有効の出国許可証の失効からカウントするかの違いによるものと思われる）。2020年2月に制定され、2020年4月1日に施行された市民権法の対応条文と25項（b）では、その期限が7年に延長されている。

…現行市民権法第25条では、国籍喪失の事由として、外国への就労（a項）、外国での長期未登録滞在（b項）、偽りの市民権取得（c項）、ウズベキスタンの利益に対する重大な損害、平和と安全に対する犯罪（d項）、一定の条件の下での他国市民権取得（e項・f項）が挙げられている。市民権法第27条は、領事館に登録されていない海外在住の自国民を特定することを当局に義務づけている。登録できなかった者には、修正する機会が与えられ、病気や在留先の国内に領事館がないなどの正当な理由がある場合は、領事館で登録することができる。

…

※ 原文フィンランド語。訳文は、DeepL.com（無料版）による翻訳に修正を加えたものです。

13. 出入国および移動の自由

ア FIS「[クエリー回答 フィンランド：一般情勢（Uzbekistan / Yleinen tilanne）](#)」
EUAA COI ポータル（2022年6月10日）

ソ連時代の法律の下、パスポートや官僚的な許認可手続きが長引き、居住地の変更はおろか、国内での移動もまだ完全に自由とは言えない状況にある。プロピスカ制度 [propiskat] は廃止されたものの、新しい居住地に移住するためには、一般的に賄賂が必要となる。

※ 原文フィンランド語。訳文は、DeepL.com（無料版）による翻訳に修正を加えたものです。

14. その他

略称

ACCORD	オーストリア出身国・庇護研究ドキュメンテーションセンター
ACLED	武力紛争位置・事件データプロジェクト
AI	アムネスティ・インターナショナル
ARC	難民調査センター
BAMF	ドイツ連邦移民難民庁

CGRS	ベルギー難民及び無国籍者庁
CIA	米国中央情報局
CNDA	フランス庇護権裁判所
CRS	米国議会調査局
DFAT	オーストラリア外務貿易省
DIS	デンマーク移民庁
DRC	デンマーク・レフュジー・カウンセル
EASO	欧州難民支援機関
FIS	フィンランド移民庁
HRW	ヒューマン・ライツ・ウォッチ
ICG	インターナショナル・クライシス・グループ
IDMC	国内避難民監視センター
IRBC	カナダ移民難民局
IRDC	アイルランド難民ドキュメンテーションセンター
ジェトロ	日本貿易振興機構
JICA	国際協力機構
Lifos	スウェーデン移民庁出身国情報データベース
Landinfo	ノルウェー政府出身国情報センター
MRGI	マイノリティ・ライツ・グループ・インターナショナル
OECD	経済協力開発機構
OFPRA	フランス難民・無国籍庇護局
OHCHR	国連人権高等弁務官事務所
OSAC	米国海外安全保障評議会
RTA	オーストラリア難民再審査審判所
RSAA	ニュージーランド難民地位不服申立機関
RSF	国境なき記者団
UKIAT	イギリス移民難民審判所
UKUT	イギリス上級審判所
UNHCR	国連難民高等弁務官事務所
USCIRF	米国連邦政府国際宗教自由に関する委員会